

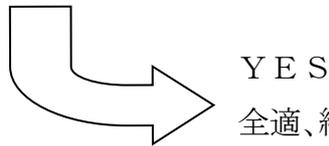
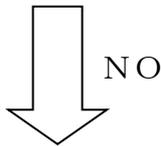
赤穂市民病院経営検討委員会・議論の観点

【議論の前提】

→ 市民病院のあり方の検討に際しては、現在の赤穂市内の医療水準を維持すること

【議論の進め方】

- 1 今の市民病院の経営形態等（全適、24診療科、360床、7：1看護等）を変更・縮小することなく、このまま経営を続けることはできるのか？
（→ベンチマークによる経営改善の余地はあるのか？）



全適、縮小することなく今の経営形態を継続

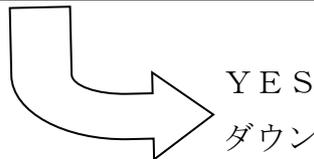
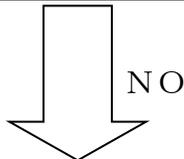
- 2 ダウンサイズ等によれば、全適は維持できるのか？

【ダウンサイズの検討】

- ① 診療機能の見直し
 - ア 赤穂市内 →市民病院と赤穂中央病院との医療機能の棲み分け
 - イ 播磨姫路圏域→がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院等の見直し
- ② ①を踏まえた適正な市民病院の規模（診療科、病床数、医師や看護師等職員数等）及びダウンサイズの検討

【この他、追加支援要望の検討】

- ③ 赤穂市に対する要望の検討（→市民病院に対する繰出額の増額等）
- ④ 相生市、上郡町、備前市等の近隣市町に対する要望の検討
（→市民病院への負担金等）
- ⑤ 兵庫県に対する要望の検討（→医師確保支援等）



ダウンサイズ等により、全適で経営

- 3 独法化、指定管理者制度、民間譲渡等のうち、市民病院にふさわしい経営形態の検討を行う。